和歌と散文「田名塩田」

多谷　昇太

いま居る秦野市内のこの団地、私の部屋は5階だがその真下の部屋に18年間に及ぶストーカーヤクザらが移り住み（又借り）、騒音立てを始めた。築ン十年になるこの団地の居住率はわずか50％位。通勤・通学に不便で、移り住む新店子もいない中、なぜか私の部屋の階段だけが転入ラッシュだ。新店子らの表札を見れば外人（アジア・ブラジル等）ばかりだが、はたして中に誰が住んでいるんだかわかったものではない。平成13年来耳タコになったストーカー・チンピラどもの罵り喚く声がそれら階下の部屋々々から伝わって来るからだ。以来部屋を夜昼互いに住み替えながら、私の真下の部屋に来ては騒音立てと罵りの限りを尽くす。その程度が至ってひどくなって来た。たまりかねて齢68をも顧ず、この2月初旬に相模原市内の某建設会社の寮に移り住んだ。場所は同市内の田名塩田。ところが、である…。

虜から逃れんものとわれ翁寮に入りしか罠と知らずして

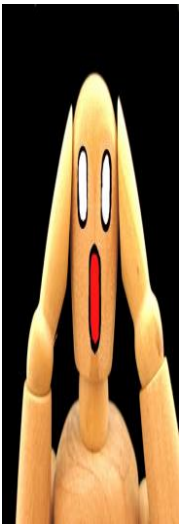
渋沢ゆ田名塩田へと移り来しきさらぎの寒厳しき折りぞ

その寮は一棟のアパートなりしかシャッターおりて獄のごとしも

オーナーら懲りもやらずにをちこちにアパート建つるもおほむね鬼城

クズ輩（うから）いくばくもなく移り来ぬヤクザとは云へせちなる店子か

隣室と真下の部屋ゆ耳タコのクズらのこゑの起こるなり…合点す



聞きたくない…
写真ＡＣより借用

「最低だ！」「プータ、プータ」と連呼すは馴れにし
ガキごゑ誰か悟らぬ　　（ガキとは云っても男女４人
それぞれ４０になるはず）

憂ざたきは悪口三昧猿うから尻に火がつき吠へに吠
へぬる　　（１８年間に及ぶ、親分からの借金膨
大につき尻に火がついているのだろう…）

不動産・建築土建屋コネクション睦び馴れたるさま
反吐ぞ出る

いとどしく憂ざかりぬべき世の主は分別持たぬ悪分
限ぞかし

又貸しも又借りとてもさすがまま法度・規約もある
べきものか

建築現場（ここ）にては片付けとふは最下にて運転
だけの能無しと云はる　　（建築現場で出る建築屑
をトラックで廃棄場まで運ぶ片付けをしていたので
す）

辛けれど良き人見れば賦活もすよに忘れじは林翁が
言葉　　（私が１９才の折り、バイト先に林さんと
いう７０過ぎになる華僑の老ウエイターがおられた。
「おい××よ、世の中にはな、いい人もいれば悪いや
つもいる。それを忘れるな」と諭してくださった）

サンコンか黒き肌の男（を）明るくも声掛けくれし
辛き廃棄現場（げんば）で

右の有様ではまったく秦野の団地と変わりない。肉体
業の仕事をするぶんむしろきつくなってしまった。結
果２０日余り勤務しただけで退職。クソ団地に戻って
来た次第。当然ストーカー共も…。今はまた元気いっ
ぱいに騒音立てに毎日励み、喧しい限りだ。こちらが
参るまでやるのだとか（とっくに参っているのだが。

１８年間もやられれば…)。「いったいどうすれば逃れられるか？」は無限回考えたが、霊視追跡と悪分限の財力、財・官（以前の住居は某市営だったから）・暴のコネクションの前では釈迦の手の平である。しかしある現代の正覚者の言葉で「最悪の環境と状況の中にあっても、その中で打つべき最善手が、必ずひとつはある」というものがある。また「‘どうすれば’ではなく、（自分が）‘どうあるべきか’が大事」とも。畢竟これらを胸に七千転び八千起きの顛末であっても、今後も模索して行くしかない…。

（※）これら和歌と散文は私事ですが、しかし女流名歌人の斉藤史（あきら）の言葉で「（和歌は）自分を晒し切ること」とあり、彼の樋口一葉の和歌も日々の生活の辛さや悲しみを赤裸々に綴っています。だからこそそこに、歌に、力があるのです。石川啄木もそうです。花鳥風月もいいですが、右の指向からして読者の皆様にはどうぞお許しいただきたい…。

行く道も生くるたづきも思ほへず情けなささに我と乱るる

夢見さへいとわりなくもなりにけり現（うつ）しのヤクザ夢にさへ来ぬ

寝かせぬとはいづくの衆の習ひぞやあなかしこ人とは云へざるべし　（あなかしこ：決して）

かくばかり瞬時も離れぬ式神の厄と澱より別れてしかな

わびぬればしのぶもやれぬ思ふどち分けし清処は遠処（をちど）となりぬ　（清処：前記正覚者のもとの集い場。かつてお世話になっていた）